QScan 2023.0
Release Notes

2022 年 11 月

ビジュアル・グラフィックス株式会社

重要なお知らせ 2
新機能 2
UI デザインの更新 2
ブランド設定 2
新しいレポートビルダー 3
目視イベントの追加（ビデオ/オーディオの詳細ページ） 7
HTML レポートの変更 8
分析設定：ファイルあたりのチャンク数 8
分析設定：部分分析のオフセット設定 8
分析項目の追加 9
リポジトリで「新規フォルダーの作成」が可能に 9
リポジトリ「ファイルの Ready 設定」の改善 9
デフォルトのテンプレートの更新 10
IMF 関連 10
その他の新機能 10
バグフィックスおよび改善点 11
既知の問題 12

お問い合わせ：
ビジュアル・グラフィックス株式会社
テクニカルサポート部
電話： 03-6277-1895 （サポート直通）
E-mail：qscan@vgi.co.jp

Visual Graphics Inc.

重要なお知らせ

- ソフトウェアバージョン毎のライセンス管理の導入により、v2023.0 へのアップデートには新しいライセンスが必要です。v2021.x を運用されている場合も、v2023 用のライセンスが必要となりますのでご注意ください。各バージョンからのアップデート方法は別資料のアップデートガイドをご参照ください。
- PDF レポートの作成手法の変更に伴い、v2023.0 以降は Windows7 では動作しません。

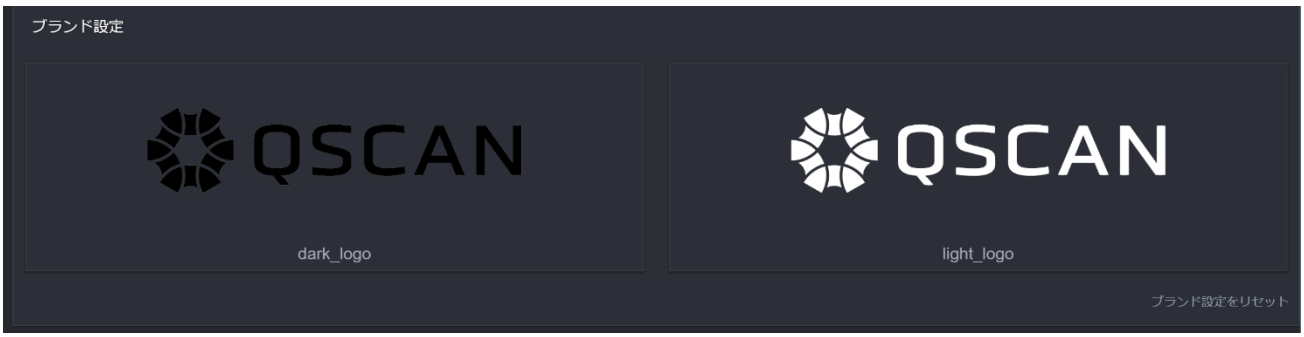
新機能

UI デザインの更新

一部のテキストやボタンアイコンの色など、デザインが更新されました。

ブランド設定

デフォルトの QScan ロゴの代わりに独自のロゴを使用できるようになりました。設定 ＞システム のブランド設定にロゴ（明暗 2 種類）を登録できます。これらはログイン画面や PDF レポートに表示されます。



ロゴをクリックし、登録したい画像ファイルを指定します（PNG ファイルに対応）。
設定をデフォルト（QScan ロゴ）に戻すには、右下の「ブランド設定をリセット」をクリックしてください。

新しいレポートビルダー

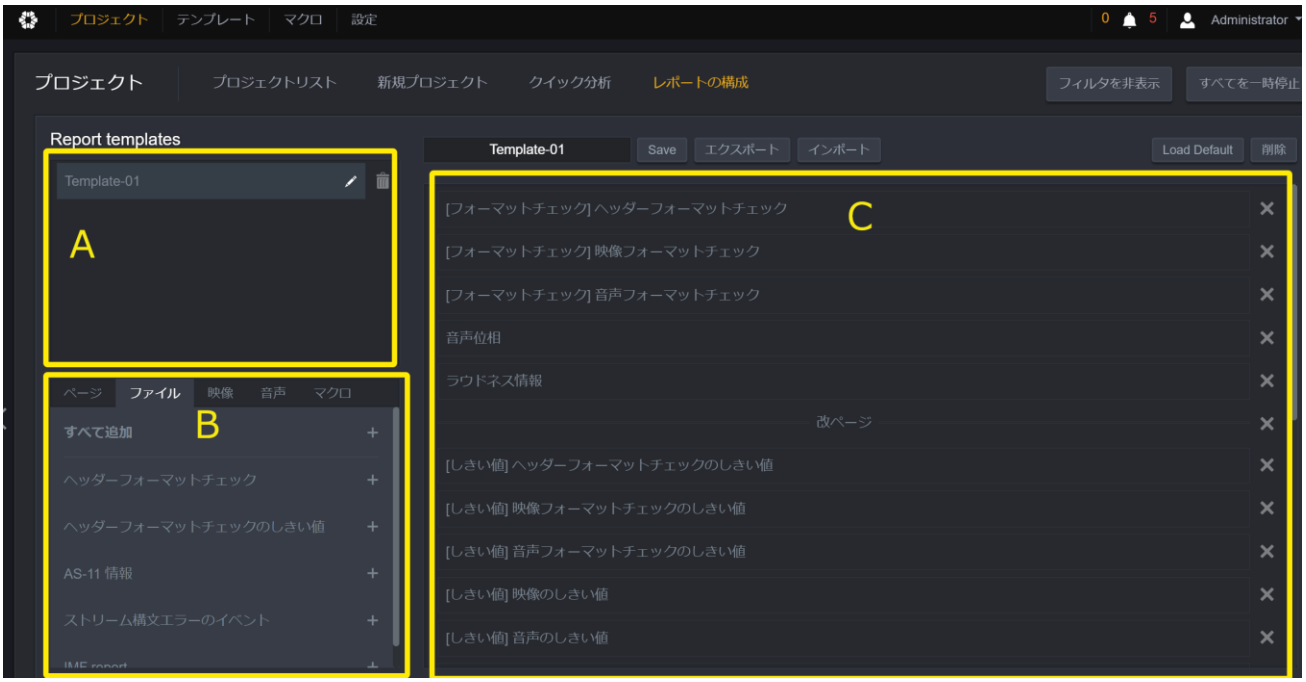
PDF 作成ツールが新しくなり、レポートの構成をカスタマイズする機能が追加されました。レポートに表示する項目の追加、削除、順序の変更などが行えます。また、日本語の言語設定で PDF のファイルサイズが大きくなる問題が解決されています。

レポートの構成は以下の場所で設定できます。

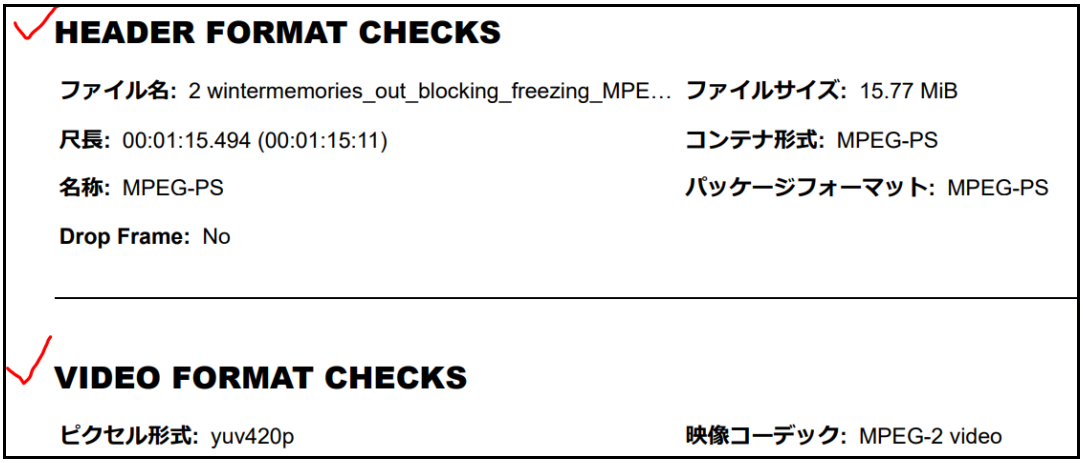
- **「プロジェクト」ページ内の「レポートの構成」**
  レポート構成のテンプレート（以下レポートテンプレート）を作成して保存できます。
- **「プロジェクト」ページ内の「新規プロジェクト」（またはプロジェクトの編集）**
  「レポート」ページでレポートの構成を設定できます。保存済みのレポートテンプレートを使用できます。

1. レポートテンプレート

A：保存済みのレポートテンプレートの一覧
B：レポートに含める要素の選択
C：現在編集中、または選択中のレポートテンプレートの内容

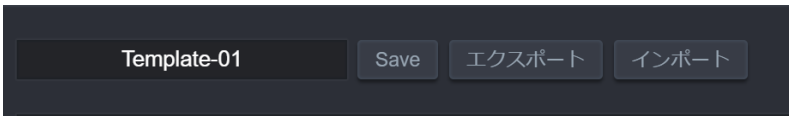


注：
デフォルトの設定をそのまま使用すると、セクションのタイトル部分が以下のように英語で表示されます。上記スクリーンショットの B の領域（要素の選択）から手動で追加した項目には日本語のタイトルが反映されます。サンプルのテンプレートファイルがインストーラのダウンロードパッケージ内に含まれているので、これをインポートしてカスタマイズして頂くことも可能です。



レポートテンプレートのインポート

1. 「インポート」をクリックし、.qrt ファイルを指定する
2. テンプレートの内容が表示されることを確認する
3. 名前の入力フィールドにテンプレート名を入力し「Save」をクリックする



保存されたレポートテンプレートがリストに表示されます。

レポートテンプレートの新規作成

右上の「削除」をクリックし、リスト内で特定のテンプレートが選択（ハイライト状態）されていないことを確認します。

構成要素のタブから項目を追加し、内容のリスト内で順序や表示方法の詳細設定を行います。主な操作は以下の通りです。

- 新規に項目を追加する：タブ内で「＋」をクリックする（リストの一番下へ追加される）
- レポート内の表示順序を変更する：内容のリスト内で、項目を移動したい場所までドラッグする
- 改ページを挿入する：「ページ」タブで「改ページ」を追加する
- レポートに不要な項目を削除する：内容のリスト内で「x」をクリックする

名前を入力し「Save」をクリックするとレポートテンプレートとして保存されます。

補足：イベントに対して画像サムネイルを表示するには
レポートの内容のリスト内で項目をクリックすると、詳細設定が表示されます。（例：映像のイベント）

- タイトル（セクションの表題）
- 最大イベント数
- レポートに表示する最小の深刻度
- 開始フレームのサムネイル
- 終了フレームのサムネイル
- 波形表示

※ サムネイルや波形表示はデフォルトではオフに設定されています。
※ デフォルトの設定をそのまま使用する場合、タイトルには英語表記が使用されます。変更するには次のいずれかを行ってください ①「タイトル」を直接編集する ②構成要素のタブから項目を手動で追加する ③サンプルのテンプレートファイルをインポートして使用する

保存済みのレポートテンプレートの編集

1. リストから編集したいテンプレートをクリックする
2. テンプレートの内容が表示されるので、目的に応じて変更を行う
3. 「Save」をクリックすると上書き保存される

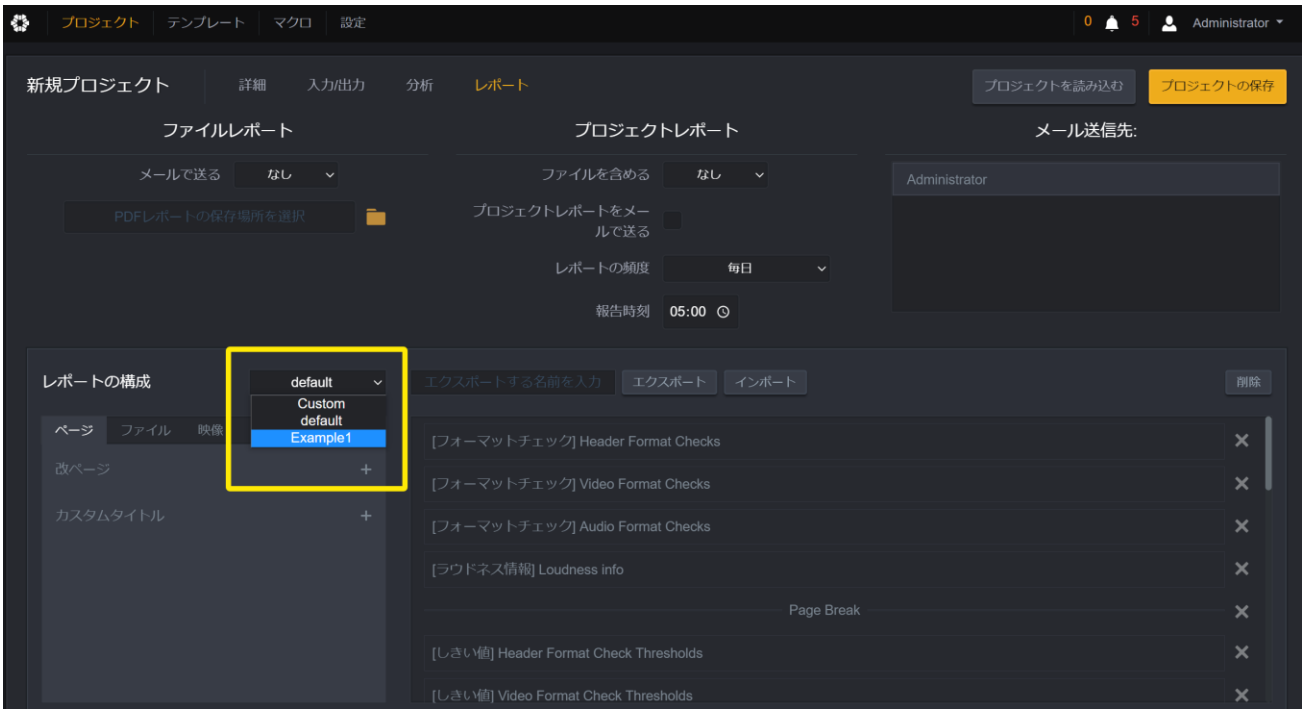
注：
v2023.0.1.7905 において、「Save」や「削除」をクリックすると削除済みのレポートテンプレートが再表示されることがあります。この場合、ブラウザでページの更新（リロード）を行うと表示が消えます。
レポートテンプレートを削除した後は、ページの更新を行うことをお勧めします。

レポートテンプレートのエクスポート

設定をエクスポートするには、テキストボックスにファイル名を入力して「エクスポート」をクリックします。.qrt ファイルとしてローカルにダウンロードされます。

2. 各プロジェクトにおけるレポート設定

プロジェクト設定の「レポート」でレポートの構成を設定できます。保存済みのレポートテンプレートはプルダウンリストから選択できます。
レポートの構成を編集する場合は、レポートテンプレートと同様の方法で項目の追加・削除を行えます。



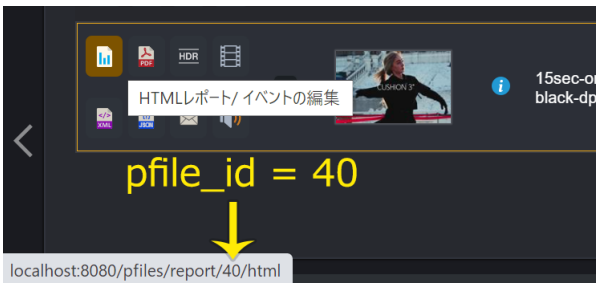
制限：分析後のレポートの更新について

2023.0 では、ファイルの分析後にプロジェクト設定でレポートの構成を変更しても作成済みの PDF レポートは更新されません。これは後継のリリースで対応予定です。分析済みのファイルレポートを手動で更新するには、以下のワークアラウンドがあります。

HTML レポートに変更を加える方法
例）HTML レポートの「Scale」を変更する（PDF レポートが再作成されます）

URL を入力して強制的に更新する方法
以下の URL をブラウザに入力し、ページを更新する
http://localhost:8080/pfiles/regeneratepdf/**pfile_id**

※ pfile_id にはファイル固有の数値を入力します。サムネイルやアイコンにマウスオーバーすると確認できます。

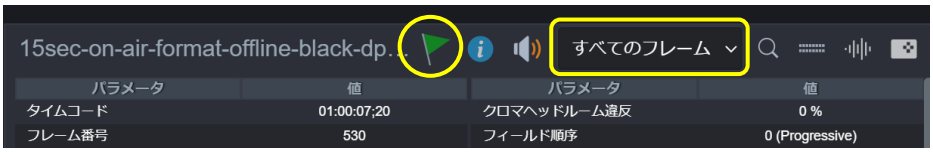


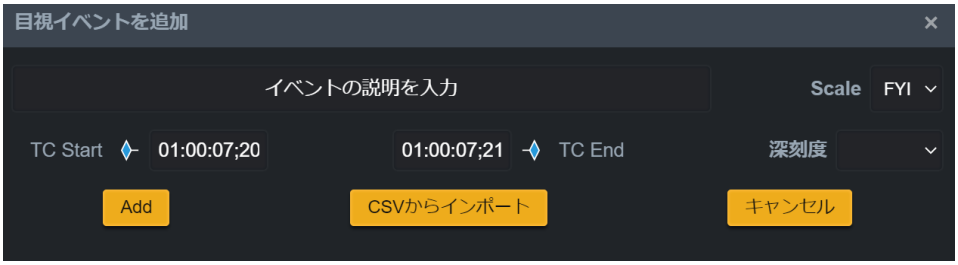
レポートビルダーの設定のサンプルや上記ワークアラウンドの詳細は、保守契約ユーザー様向け「QScan サポート・エッジ」のナレッジベースでもご案内しています。

目視イベントの追加（ビデオ/オーディオの詳細ページ）

ユーザーがカスタマイズしたイベントを追加できるようになりました。例えば、目視チェックで見つかった箇所をレポートに反映させることができます。追加したイベントは、UI 上のイベントカウント、HTML レポート、PDF レポートに反映されます。目視イベントを追加すると PDF レポートが自動的に再作成されます。
目視イベントは、ビデオ/オーディオの詳細ページから追加できます。

1. 表示モードを「すべてのフレーム」に切替えると緑のフラッグアイコンが表示されるので、これをクリックする。





2. イベントの開始 TC / 終了 TC を指定する。数値入力するか、「TC Start」「TC End」をクリックすると選択中のフレームの TC が自動で入力される
   ※ 開始 TC と終了 TC に同じ TC を入力するとイベントの尺長が 0 で表示されることに注意
3. イベントの説明を入力する（レポートにメッセージとして表示される内容）
4. 深刻度を設定する（logging/warning/critical）
5. Scale を設定する（任意）
6. Add をクリックするとイベントが作成される

CSV からインポートする

CSV ファイルを使用して複数のイベントを一括で追加することも可能です。CSV は、「開始 TC, 終了 TC, 範囲, メッセージ, スケール, 深刻度（各項目はカンマ区切り）」の書式で記述される必要があります。例は以下の通りです。

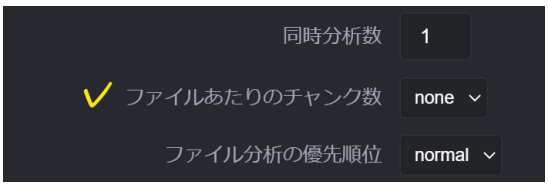
```
start,end,scope,message,scale,severity
01:00:01;00,01:00:02;00,video,My Eyeball event,2,1
01:00:05;00,01:00:06;00,video,Something weird,1,2
01:00:07;01,01:00:08;10,video,Something nice,3,3
```

HTML レポートの変更

- レイアウトの変更
- 終了フレームのサムネイルの追加
- Scale（スケール）：
  従来の深刻度（Logging/Warning/Critical）とは別に、イベントに対する深刻度の段階を設定できます。一部の配信仕様に対応するために追加されました。FYI（For Your Information=参考）または 2～5 のレベルを設定できます。HTML レポート上で変更すると、PDF レポートにも自動的に反映されます。
- 目視イベントの表示：
  チェックがオンの場合、ユーザーによって追加された「目視イベント」を表示します。

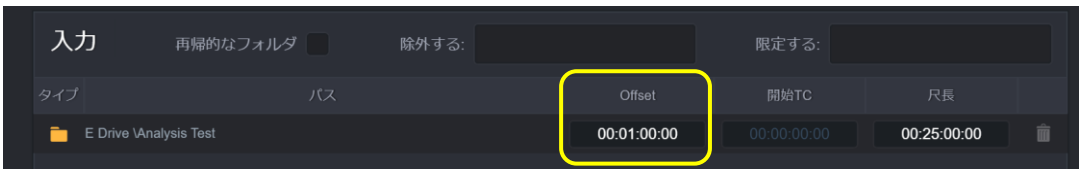
分析設定：ファイルあたりのチャンク数

ファイル分析に使用するチャンク数を設定できるようになりました。これは特に高性能のマシンで CPU をより効率的に利用するための機能で、ファイルを 2 または 4 つのセクションに分割し平行して分析できます。プロジェクト設定 ＞ 詳細 ＞ ファイルあたりのチャンク数 で設定します。



分析設定：部分分析のオフセット設定

部分分析で、新たに「オフセット」を設定できるようになりました。ファイル毎に開始 TC が異なる場合に、分析の開始ポイントを一括で指定できます。



分析項目の追加

尺長
ヘッダーフォーマットチェックの「尺長」で、閾値の単位を選択できるようになりました。タイムコード、秒、フレームから選択できます。「タイムコード」を選択すると、hh:mm:ss:ff のフォーマットで尺長の検査を行えます。

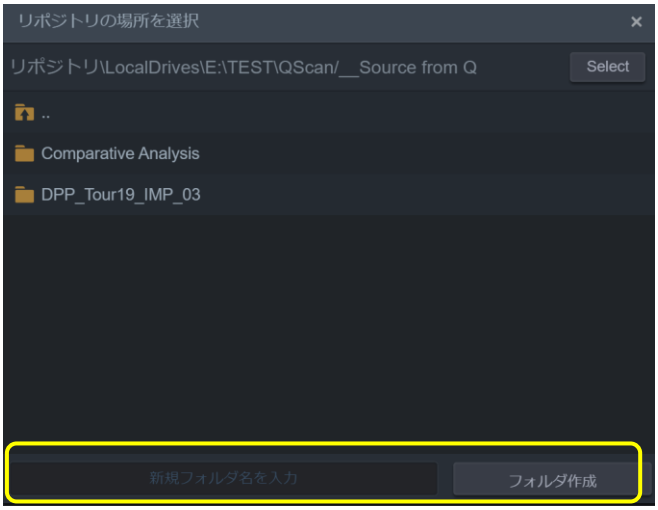
映像ビット深度
映像フォーマットチェックの「映像ビット深度」に、16 bit が追加されました。

表示アスペクト比
映像フォーマットチェックの「表示アスペクト比」に、以下の項目が追加されました。
1.33:1, 1.66:1, 1.75:1, 1.77:1, 1.78:1, 1.85:1, 1.90:1, 2.00:1, 2.10:1, 2.20:1, 2.21:1, 2.24:1, 2.35:1, 2.38:1, 2.39:1, 2.40:1, 2.50:1, 2.55:1

カラースペース
映像フォーマットチェックの「カラースペース」に、YUVA が追加されました。

リポジトリで「新規フォルダーの作成」が可能に

リポジトリの作成時に新規フォルダーを作成できるようになりました。フォルダー名を入力し、「フォルダ作成」をクリックします。



リポジトリ「ファイルの Ready 設定」の改善

エンコーダ等からのファイルエクスポートや、通常のファイルコピー中に分析が開始されないように、ファイルの Ready 設定が改善されました。以前はファイルコピーに対しては「排他ロック」、ファイルが増長するエクスポートに対しては「ファイルの増大」または「最終更新日」で対応する必要がありましたが、ひとつの設定で両方のケースに対応できるようになりました。

排他ロック（Read Share）
ファイルが完全にコピーまたはエクスポートされたときに分析を開始しますが、他のアプリケーション（編集アプリケーション等）でファイルを開いている状態を許容します。

排他ロック
ファイルが完全にコピーまたはエクスポートされ、他のアプリケーションがファイルを開いていない場合に分析します。

注：
以前のバージョンで「排他ロック」を使用していたリポジトリは、ソフトウェアアップデート時に「排他ロック（Read Share）」へ変換されます。

デフォルトのテンプレートの更新

- Disney Media Technical specifications に沿った Disney+ 向けの新テンプレートが追加されました
  https://mediatechspecs.disney.com/mastering#/mastering

- Amazon Prime Video テンプレートが更新されました。Video Central 仕様に最適化されました
  https://videocentral.amazon.com/home/help?topicId=G9L49ZRPJS4HTUVF&ref_=avd_sup_G9L49ZRPJS4HTUVF

IMF 関連

PDF レポート
新たに「IMF レポート」セクションが追加されました。IMF パッケージがある場合、最初に IMF コンプライアンス情報を表示し、それから IMF パッケージ内の全ファイルのフォーマット情報、閾値、PSE レポート、ラウドネスなどが 1 つのレポートで表示されます。

クイック分析への対応
CPL を選択して IMF パッケージを分析できるようになりました。

その他の新機能

- ライセンスバージョンとソフトウェアバージョンの情報の分離
  ライセンス情報内の「バージョン」は適用中のライセンスバージョンを表示し、インストールされているソフトウェアバージョンは右上に表示

- ブラウザを終了するとセッションが終了するように仕様を変更（QScan への再ログインを要求する）
- ソフトウェアのインストール時に Web サービスのポート番号の入力が可能に

- 特定のアカウントで QScan サービスを実行している場合、ソフトウェアアップデート時にサービスを実行するユーザー情報を引き継ぐオプションが追加
- Disney+仕様のブランキングエラーと表示アスペクト比を検出するマクロの追加
- REST API ドキュメントの追加。以下よりアクセス可能：http://localhost:8080/swagger/ui

バグフィックスおよび改善点

- ファイル分析時に DB へのデッドピクセル結果転送により分析が不完全になる問題
- 閾値の区間設定がレポートに反映されない問題
- 日本語の言語設定において PDF レポートのファイルサイズが肥大化する問題
- ２ページ目以降のプロジェクトを Trash box アイコンで個別に削除できない問題
- フォーマットチェックイベントのレポートの問題（フォーマットプロファイルとレベル、ディスプレイのアスペクト比、音声マッピング、フィールド順序）
- Drop Frame / Non Drop Frame の検出に関する問題
- 一部のページで再分析ボタンが機能しない問題
- 音声タイムラインで先頭のサムネイルが表示されない問題
- 誤った UI メッセージの修正
- 一部のフレームレートにおける TC の不具合
- PSE イベントの不整合
- 部分分析時に HDR レポートでサムネイルとフレームが表示されない問題
- HDR チェック「Gamut Check」のイベントが HTML レポートで重複表示される問題
- HDR パラメータが欠落しているマクロの修正
- API でイベント情報を取得する際の TC 形式を修正
- JSON レポートが 100 以上のイベントを表示しないように修正
- イベントの復元が機能しない問題
- デッドピクセルのイベントの表示に関わる問題
- プロジェクトの名前を付けずに「プロジェクトの保存」ボタンを押すと警告を表示するように改善
- リポジトリ内に新規フォルダーを作成する機能
- レポートで使用中のテンプレート名の表示

既知の問題

- しきい値の区間設定において From tail と Duration の組み合わせを指定できない
- デフォルトのテンプレート「Amazon HD Mezzanines」で閾値の設定に誤りがある
  映像フォーマットチェックのスキャンタイプでインターレース設定が 2 つ重複している。（うち 1 つをプログレッシブの設定に変更すると正しい）
- PDF レポートをメールで送信する機能が動作しない
- PDF レポートの出力先設定で、リポジトリへの新規フォルダー作成が機能しない
- PDF レポートの表示に関する問題（既知のものは以下の通り）
  - イベントの終了サムネイルが正しくない
  - ビデオフォーマットチェック、およびオーディオフォーマットチェックの閾値いくつかが、ヘッダーフォーマットチェックの閾値のセクションに表示される
  - イベント詳細および閾値に表示されない項目が存在する（音声ストリーム数、チャンネル数、平均音声位相、映像の有無、Gamut Check）
- レポート内において、個別の音声イベントに対する尺長（フレーム数）と深刻度に対するイベントの総フレーム数の表示が異なる
- 部分分析の開始 TC にファイルに存在しない TC またはファイルの開始 TC を指定すると分析がジョブループする
- ビデオの詳細ページでデッドピクセルマーカーが表示されない
- テンプレートを「結合する」で適用後、ラウドネス分析オフセットの値がデフォルトに戻る
- 詳細ページのタイムラインでファイルの末尾が表示されない（ワークアラウンド：タイムラインをズーム表示する）
- マクロ保存後にオーディオチャンネルの選択を変更できない
- チャンクベース分析で MXF セグメントを有効にしてマルチパートファイルを分析すると不一致が検出されることがある。（チャンクベースを使わない分析は正しい結果を提供する）
- テンプレートの適用で「置換」を使用した場合、分析設定が適切に読み込まれない場合がある。（ワークアラウンド：「結合する」を使用し、不要なパラメータを手動で無効に設定する）
- プロジェクト設定でレポート構成の設定を変更した場合、UI から分析済みのレポートを更新できない
- HTML レポートに変更を加えて PDF レポートが自動更新される際に、出力フォルダーにコピーされた PDF レポートが自動更新の対象とならない（PDF の保存場所として設定されたものは更新対象となる）
- エラーメッセージが長すぎる場合、PDF レポートの IMF セクションの書式が崩れることがある
- 閾値設定時にカスタムのメッセージを入力後、深刻度を変更するとデフォルトのメッセージに戻る
- Offset を使用した部分分析で、ビデオ/オーディオ詳細のタイムラインの開始 TC がファイルの先頭フレームの TC で表示される
- レポートテンプレートの作成・保存において、一度削除されたレポートテンプレートが特定のボタンを押すと再表示されることがある（ワークアラウンド：ブラウザでページを更新する）
- プロジェクト設定で閾値を変更してから手動で複数のファイルのレポートを更新すると、別のファイルの PDF レポートがダウンロードされることがある（ワークアラウンド：レポートを 1 つずつ更新する。誤ったレポートがダウンロードされる場合は URL を使用してレポートを再作成する）